

講座 3・8		開催日	8月20日(火)	会場	栗東歴史民俗博物館	人数	42名
『すべては幸せを感じるために ～やまなみ物語～』		感想	○山下さんの視点はとても柔軟で、利用者さんを社会の枠に当てはめて見ていくのではなく、利用者さんが一番幸せになるにはどうしていったらいいのかということが中心になっています。たくさん素晴らしいところを持っている子どもたちが、最大に伸びられるようにするために、その環境を奪うことなく子どもたちと関わっていきたいと考えます。				
講師	社会福祉法人 やまなみ工房 施設長 山下 完和 氏		○普段の自分の価値観で「当たり前」や「普通」を判断しており、それがすべての人に当てはまると考えていることに気づかされました。そしてそれを子どもたちにも押し付けていることにも気づかされました。				
		感想	○今回の話を聞いて、子どもの幸せは、子どもにしか描けないものであると改めて気付くことができたし、子どもがどうなりたくて、どのようなことがしたいのかをもっともっと子どもと語り合っていきたいと思えた。				

◆ 特別支援教育講座 ◆

講座 4		開催日	7月30日(火)	会場	なごやかセンター集会室	人数	65名
『通常学級における子どもへの具体的な関わりと支援のあり方 ～個別指導計画を中心にした支援と個別最適な学び～』		感想	○個別指導計画を今作成しています。たくさんの課題がある児童にあれもこれも支援しないと・・・と考えている最中でした。今日の講義を聞いて、1学期を振り返り、ほんとうに児童が困っているのはどれだろうか、保護者さんの願いは、しいて言えばどれが1番の課題かなど個別指導計画への向かい方、支援の必要な児童への向かい方を再確認できました。				
講師	栗東市発達支援 アドバイザー 福井 芳彦 氏		○1人1人に応じた支援が大切であり、支援計画等の中で明確な数字で目標を立てることや、誰がやっても同じようにというのが大切だと思いました。また、大人の物差しで話したりするのではなく、子どもの物差しで接することが大切だと感じたので、これからの実践で活かしていきたいと考えます。				
		感想	○4月に作成した個別の指導計画、支援計画をもう一度見直そうと思いました。また、目標を保護者の方だけでなく、その子にも理解させ、持続させるために、作成したら終わりでではなく常に見返しながら支援していこうと思いました。				
講座 5		開催日	8月2日(金)	会場	なごやかセンター集会室	人数	31名
『この子たちの応援団になりたい2 ～私たちだからこそできることを再び考える～』		感想	○先生から、たくさんの言葉をいただきました。その子の好きをその子の得意を教材にする。その子がどうしたら学びやすいか考えるのが大事。その子のよさを大切にしながら、社会生活が送れるように準備する。応援団として、がんばりたいと思います。				
講師	野洲市立野洲小学校 校長 細谷 亜紀子 氏		○体験をすることで、支援のいる子の苦勞を感じることができました。ケースから学級全体への支援、個々への支援を考えることは、実際の学級や子どもたちを思い浮かべながら考え、グループで意見を出し合うことができ勉強になりました。中学校の先生のグループの発表も聞けてとても参考になりました。				
		感想	○今回の講座は、講座名「応援団になりたい」に惹かれて受講しました。細谷先生の考え、子どもたちへの寄り添い方が、私がこうでありたいという姿でした。しんどさを抱える子どもたちのために、知識をインプットすることを止めることがないようになりたいと思います。				

講 座 Ⅱ		開催日	8月6日(火)	会場	栗東歴史民俗博物館	人数	18名
『確かな学力を保証し、潤いのある学級づくりをすすめる教師の在り方』		感想	○自分が漠然と感じていた子どもへの向き合い方の悩みが、先生の言葉で解像度が上がり、自分の幹を改めて実感できました。繰り返し話されていた、3つの視座を柱に、与えることと、引き出すことの両立、行動への意識づけと勇気づけによる実践を続けます。				
鳴門教育大学大学院 教授 久我 直人 氏			○問題が起こった時こそ、「にこっ」という言葉が心に残りました。指導しなければならない問題ではなく、みんなで解決していきたい課題という意識をもち、子どもたちと共によりよい学級を作っていきたいと思いました。				
講師			○学んだことを広めて、「チーム学校」で目の前の子どもたちを見ながら、「勉強って、友だちって、先生って、学校って、楽しいなあ!」と感じられるようにしていきます。また、保護者の方がお子さんへの心配が少しでも減るような発信をします。				

◆保育・教育・授業づくり講座◆

講座 13		開催日	8月7日(水)	会場	栗東歴史民俗博物館	人数	14名
『学びに向かう力の育成を目指す小学校算数科の授業づくり ～「解決過程を振り返る」ことに重点を置いた学習指導の充実を通して～」』		感想	○授業の時間配分がうまくいかに振り返りの時間を設けられないこともありましたが、今回の講座を受講させていただき、振り返りこそ、大切な時間だと改めて感じました。また、問題の答えを導くまでのプロセスに重点を置いて「バッチリ」と褒め、算数嫌いな児童が自信をつける機会にしたいと思いました。 ○講座を通して、学びに向かう力を育てる過程を考えることができた。四つのプロセスの中で、考えを共有するプロセスがあったが、栗東市では2学期からMetaMojiが入ることなので、ICTをうまく活用して子どもの多様な考えを生み出しつつ、共有して、よりよい授業を目指していきたいと思った。 ○算数科を中心とした講座だったが、小学校段階での授業の作り方や、進め方は中学と同様であり、数学的な考え方ができるような声かけや発問が重要であると改めて感じた。				
講師	滋賀県総合教育センター 研究員 中波 慎 氏						
講座 14		開催日	7月31日(水)	会場	治田西小学校 多目的室	人数	69名
『授業支援システム活用研修』		感想	○授業支援システムを使うことで、支援が必要な子どもだけではなく、どの子に支援がいるのか個々の課題や進捗度を確認めるにも大変有効だと感じました。本校でも積極的に取り組み、来年度から子どもたちが不自由なく使用できるようにしていきたいです。 ○具体的な授業場面や、教材研究の場面を想定した研修で非常によくわかりました。9月からの授業実践に向けて校内で進めていきたいと思います。また、トラブルになりそうなことを職員間で確認しながら、活用したいと思えるような環境づくりにも取り組んでいこうと思います。 ○教師用・児童用のどちらもで体験することができ、とてもわかりやすかったです。また、共同学習として使う際の全国の学校の例がいつでも見られ、またそのデータを活用したり指導案を見られることがとても魅力的ですぐにでも活用できそうだと思います。				
講師	MetaMoji 青野 佑一 氏						

◆一般教育研修講座◆

講座 15		開催日	8月9日(金)	会場	なごやかセンター集会室	人数	13名
『子どもたちの自尊感情を高めるライフスキル教育研修』		感想	○ライフスキルについて、色々な活動や模擬授業を通して深く学ぶことができました。自分たちで考えたり、話したり、実践したりする時間が多く、最後まで楽しく学ぶことができました。今日、学んだことを二学期以降に生かしていきたいと考えています。 ○日頃から学級活動をする上で自分が知らなかった活動もあり、とても勉強になりました。また、ルール作りを通して学級の雰囲気も考えることができ、色々なパターンを持ちながら行うことができると感じました。1日を通して、小学校の先生と協力して模擬授業をしたことなど自分にとってとても充実した講座になりました。 ○二学期から実践できるものも多くあり、小学校の先生方との関わりで、生徒へのコミュニケーションの取り方やクラス運営、授業計画の方法など新しい発見や知らない部分を知り、学ぶことができました。今回学んだことをクラス、授業で必ず実践して自らフィードバックを行い、よりよい授業作り、学級経営に尽力します。				
講師	ライオンズクエスト 認定講師 寺本 之人 氏 						
講座 16		開催日	8月1日(木)	会場	ひだまりの家 コミュニティーホール	人数	33名
『こどもの笑顔は 人の心をつなぐ』		感想	○AI ではない事…人間しかできない力…これからの社会を生き抜く為に大切なことは何なのか？講師谷口さんの話は、自身の幼少時代に味わってきた出来事や人とのつながり…思い出が蘇ってきて懐かしさも感じながら聴きました。 ○「子ども食堂」という言葉は知っていたが、誰がどんな思いでしているのかは今回の講座で初めて知ることができた。職場を通してでなくても、地域の中で自分自身ができることがまだまだあるのだと気づくことができた。 ○子どもを守るためには、子どもの背景について知り、関わる必要性を感じました。現状を知って終わりではなく、どうするかを考えていきたいと思いました。				
講師	滋賀県社会福祉協議会 谷口 郁美 氏 						
講座 17		開催日	8月7日(水)	会場	ひだまりの家 コミュニティーホール	人数	39名
『あなたの身近にもいるLGBT Q + 性の在り方は十人十色』		感想	○紙芝居の中の「好きなように生きていけど生きられない」と言う言葉が印象に残った。自分の身近な問題と重ね合わせて考えた時、性の問題だけでなく、いろいろな人権問題においても当てはまる言葉であり、考えさせられました。誰もがしたいように、好きなように生きられる社会をめざして自分ができることを考えていきたいと改めて思いました。 ○今まで困ったことがないことで、困っている人がいること、同じように制度が利用できない人がいることを、実体験を聞くことで改めて知ることができました。もし自分に話してくれる人がいたとき、子どもの思いに気づいたときには味方でありたいと強く思いました。 ○自分のことも相手のこともどちらも大切にできる人になってほしい、協力者がいれば大丈夫なことが多い、というメッセージが強く心に残りました。命に直結することだということを忘れないで向き合いたいと思います。				
講師	元養護教諭 井上 鈴佳 氏 						

講座 18		開催日	8月20日(火)	会場	ひだまりの家 コミュニティーホール	人数	59名
『部落差別解決に向けて私たちに求められていることは』		感想	○人権、部落差別という言葉を知るとちゃんと教えなきゃ、でも完璧に知っているわけではないしどうしようという不安がとても大きかったです。でも今日の話を聞いて、常に知識をアップデートして、子どもたちと一緒に考えて育っていくことが大事だと知ることができてよかったです。 ○差別は誰でもする側になる、だから学び続けること、アップデートし続けることが大切だと改めて感じました。差別をせず行動できる人になり、その仲間を増やせる人になりたいと思いました。 ○自分の差別心と向き合い、振り返ることができたとともに、自分の行動で伝えていくことの大切さを改めて感じることができました。また、繋がりを大切にしながら、自分の行動や考えが正しいか確認しながら自分ができることをしていきたいと思いました。				
講師	部落解放同盟 大阪府連合会向野支部 青年部 事務局長 靱山 彩 氏						
講座 19		開催日	8月23日(金)	会場	ひだまりの家 コミュニティーホール	人数	44名
『在滋賀県朝鮮人を生きる～ひとりの人として認め合える社会をめざして～』		感想	○初めてお話を聞かせていただきました。根強い差別に、心が痛みます。同じ地域に生きるものとして、お互いを大切に思いながら過ごしていきたいです。自分はどうか生きるか、差別を許さない生き方ができているか、自分をふりかえりながら、学び続けていきたいです。 ○在日何年ですか？と聞かれて、なるほどと感じました。たまたま日本に生まれてずっと日本に住んでいることに改めて気づきました。いろいろな立場の方がおられること、そのことを大切に思うこと、そんなことを身近な人や子どもたちに伝えたいと思いました。何で国があるのかなあ、私もいつもそのように考えています。夏休みの後半に、気持ちの引き締まる有意義な研修をさせていただきました。 ○在日の方々のことについて何も知らなかったのが、新しく知ることができました。故郷や文化、言葉は違っても、人間としての根本は同じで、支え合うことでみんなが幸せに生きていくことができるんだよと改めて思いました。一人の人間として、お互いの違いを認め、それも含めて支え合える人間になりたいです。今日学んだことは、職場、そして子どもたちに伝えていきたいです。				
講師	滋賀県朝鮮初級学校 元校長 鄭 想根 氏						

夏季休業も終わり、いよいよ学校・園生活が始まります。

夏季休業中の研修等で学んだことを保育・教育に活かし、

子どもたちの成長につなげられますよう、先生方の実践に期待しています！

